

教材及び資料作成の工夫と双方向型の授業づくり

特別支援教育講座・榎木暢子

1. 授業の概観

1-1 授業概要

本授業は特別支援学校教員免許状取得に必要な科目であり、肢体不自由児の教育に関する制度や教育課程について概説できること、肢体不自由児の子に応じた指導を立案できることを目的とした。そのため、①学習指導要領及び解説の肢体不自由児に関する記述の理解、②肢体不自由児の障害特性を理解した上での具体的な指導方法の理解と習得、③指導案の立案と模擬授業による実践力の育成、④肢体不自由児教育に関わる現代の課題の理解を各授業におけるねらいとした。授業で取り扱った内容は以下のとおりである。

- ・肢体不自由教育の概説
- ・肢体不自由の概念と歴史（肢体不自由児施設と教育に関するビデオ）
- ・特別支援学校（肢体不自由）の教育課程とその編成
- ・教育課程の編成と自立活動
- ・自立活動の内容
- ・教科指導における視覚支援
- ・訪問教育、院内学級（脳性まひ児の障害特性と支援の実際に関するビデオ）
- ・身体の動きへの指導、支援（4号館1階プレイセラピールームでの実技）
- ・コミュニケーションの基本とAACの活用
- ・障害の重い子どもの健康指導
- ・医療的ケアの歴史と現状
- ・医療、福祉等との連携
- ・肢体不自由児教育と個別の指導計画、教育支援計画
- ・肢体不自由児のモデルケースに関する学習指導案立案と模擬授業（KJ法による討議）

1-2 授業改善の取り組み

7月上旬に受けたFD研修で得たレジメ作成およびアクティブラーニングの手法を用いて、①授業時間内の学生の活動量の増加と、②時間外学習へのフィードバックを試みた。①についてはレジメの形式を改正した。本時の目

標及び重要語句を明示し、次に授業内容を示した。授業内容はプレゼンテーションを見ながら記入、マーキングができるようにするとともに、必要な図表のみをレジメに示し、学生自身が書き込むことで、主体的な活動の量を増やした。②については提出されたレポートに評価及びコメントをつけて返却した。特に指導案については訂正理由を示し、学習指導及び指導案作成の基本的な考え方を伝えた。また、模擬授業の協議後、授業と指導案へのコメントを全体で共有するようにした。その後修正指導案を提出させ、授業内容理解の向上と定着を図った。

2. 授業評価法

無記名による4段階のアンケートと記述式のアンケートを行った。各項目の結果については図1、2に示す。

アンケートは受講生の成績に一切影響せず、授業に対する自由な回答を保障するため、最終試験終了後、インターネットを通じて無記名式で行った。

3. 授業評価結果

受講者は学部学生26名（2回生23名、3回生2名、4回生1名）、大学院特別支援教育コーディネーター専修6名（現職教員）、他専修1名で、合計33名であった。このうち12名から回答があった（回答率36.4%）。授業終了後のアンケート実施だったためか、回収率は低かった。

3-1 授業に関する感想（図1）：ほぼすべての項目において肯定的な感想が得られた。

3-2 自由記述（抜粋）

・毎回、プレゼンとプレゼント対応したワークシートがあり、本時の目標と内容、今日の用語、学習内容がまとめられており、授業もわかりやすかったです。また、前期に比べ、強烈な日程だった最終試験のテスト勉強の復習にワークシートが役に立ちました。毎回のプレゼンとワークシートの準備ありがとうございます

ございました。

・レポートや指導案に対するコメントや改善すべき点など細かくいただけて、これからの自分の考えに役立つことばかりで、すごく感謝しています。

・授業内容がすごく濃く、新しく得た知識を理解できるかがすごく不安だったのですが、先生の説明や配布プリントがすごくわかりやすく、また実際に自分たちの体で体験したりさせてくださったので、実感を伴った理解ができました。

・指導案を書く課題は大変でしたが、学部生には来年度教育実習に行ったとき役立つと思います。ただ、模擬授業の日は、時間的に非常にタイトで、もっとじっくり協議ができればよかったように思います。

・具体的な場面でそれぞれの児童の障害特性に応じた指導や対応について学びたかった。一人一人が指導案を立てるのも良いと思うが、1つ指導案(悪い見本)を先生から提示して、どこを直せば良い指導案になるか考えさせるという方法はどうかと思う。指導案を1から作るのは大変で、体裁を整えるだけでも大変なので、肢体不自由の指導を考える本質の部分をもっと学べたらよかった。

・現在の教育の問題点について、キャリア教育的視点においてその子の人生をどのように捉えるか、また、通学を可能にするための医療的ケアについても考える視点を提示していただき、考える機会となったのは、有意義だった。

4. 総括

今回、授業改善として取り組んだ①授業時間内の学生の活動量の増加と、②時間外学習へのフィードバックについては、自由記述でも触れられているように、概ね高評価であった。肢体不自由児のイメージがもてていない学生への指導として写真やビデオ、実技指導などを盛り込んだことも理解を促したと思われる。

次年度に向けての改善点は以下のとおりである。プレゼンは図表中心で、細かな説明はレジメにあるため、プレゼンとレジメの内容を関連付けて考えられるよう、更なる工夫が必要である。また、模擬授業後の班ごとの検討時間が少ない、時間がタイトになるなどの意見が少なからずあり、時間設定や他の授業内容とのバランスを考えながら、授業計画を修正する必要がある。指導案作成と検討については授業の中で指導案の書式や作成上の注意事項、目標や内容設定について説明したが、限られた時間の中で資料による説明だけで理解することは不可能に近い。本授業としては特別支援学校における指導案を初めて書く、もしくは経験が少ない学部学生の授業として、書くこと自体の経験と作成した指導案を修正していくプロセスを学んでほしいと考えている。

現職教員にはもっと具体的な例に即した指導法を学びたいとの思いがある。現職教員の学びの要求に応えつつ、学部学生の能動的な学びを引き出す授業展開を工夫していきたい。

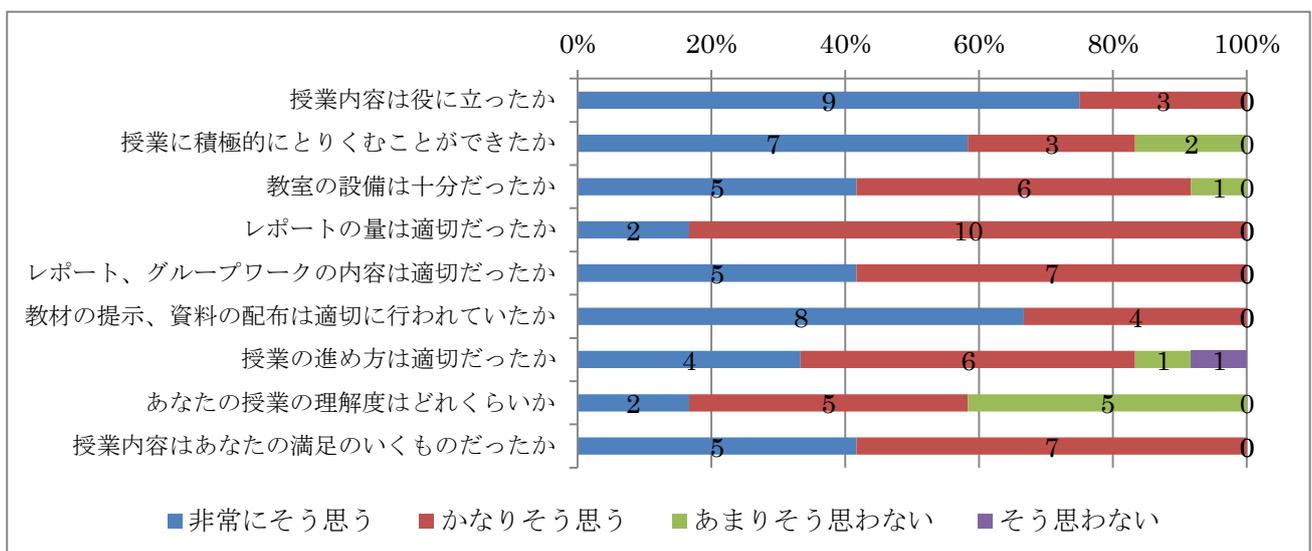


図1 授業に対する受講生の感想 (4段階尺度)